



## 2014年12月期 第3四半期財務・業績の概況(連結)

2014年11月6日

会社名 サントリーホールディングス株式会社 URL <http://www.suntory.co.jp>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)新浪 剛史  
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員 広報部長 (氏名)濱岡 智 広報部 TEL (03)5579-1150  
 TEL (06)6346-0835

(百万円未満切捨て)

### 1. 2014年12月期第3四半期の連結業績(2014年1月1日～2014年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2014年12月期第3四半期	1,782,444	18.5	116,880	30.7	110,002	29.6	29,428	△ 84.0
2013年12月期第3四半期	1,504,183	9.6	89,422	17.3	84,855	17.9	183,626	605.9

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2014年12月期第3四半期	43	13	-	-
2013年12月期第3四半期	269	15	-	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2014年12月期第3四半期	4,342,573	1,102,180	18.7
2013年12月期	2,374,070	1,056,726	32.3

(参考) 自己資本 2014年12月期第3四半期 811,767百万円 2013年12月期 768,011百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金						
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計		
	円	銭	円	銭	円	銭	
2013年12月期	-	-	-	17	00	17	00
2014年12月期	-	-	-				

(注) 2013年12月期配当の内訳 普通配当12円 特別配当5円

### 3. 2014年12月期の連結業績予想(2014年1月1日～2014年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期	2,440,000	19.6	167,000	32.0	143,000	18.6	37,000	△81.1	54	23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(参考1)

のれん等償却前 2014年12月期通期(予想)	216,000	43.3	192,000	32.6	76,000	△64.6
-------------------------	---------	------	---------	------	--------	-------

(参考2)

調整後EBITDA倍率 2014年12月期通期(予想) 5.2

※調整後EBITDA倍率=劣後債務資本性考慮後ネット有利子負債(借入金+社債-現金・預金他)÷調整後EBITDA(ピーム サントリー社通年ベース)

D/Eレシオ 2014年12月期期末(予想) 1.2 ※D/Eレシオ=劣後債務資本性考慮後ネット有利子負債÷純資産

※この四半期財務・業績の概況は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は受けていません。

## 経営成績

### 1. 当第3四半期連結累計期間の概況

当第3四半期連結累計期間(2014年1月1日～2014年9月30日)の世界経済は、全体としては緩やかに回復しました。わが国経済においては、一部に弱さが見られるものの、緩やかな回復基調が続きました。

こうした中サントリーグループは、「ザ・プレミアム・モルツ」「金麦」「角瓶」「山崎」「白州」「ジムビーム」「サントリー天然水」「BOSS」「PEPSI」といった主要ブランドのマーケティング活動強化を中心に、積極的な取り組みを展開しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1兆7,824億円(前年同期比118.5%)、営業利益1,169億円(同130.7%)、経常利益1,100億円(同129.6%)となりました。なお、前年同期のサントリー食品インターナショナル(株)の上場にもなう特別利益計上の反動と、当第3四半期連結累計期間のビーム社買収にもなう一時費用の計上などにより、四半期純利益は294億円(前年同期比16.0%)となりました。

#### 〈飲料・食品セグメント〉

サントリー食品インターナショナル(株)は、ブランド強化により需要を喚起し、国内・国際事業両輪でさらなる成長を図りました。また、同社グループ全体で、各社の知見を活かした品質の向上や、コスト革新による収益力強化にも取り組みました。

国内事業においては、重点ブランドの強化に加え、付加価値の高い特定保健用食品やフレーバーウォーターの新商品を市場に投入し、新たな需要を喚起しました。また、さらなる利益成長に向けて一層強固な事業構造への変革を進めました。

「サントリー天然水」は、“清冽でおいしい水”“ナチュラル&ヘルシー”をブランド独自の価値として訴求しました。「サントリー 南アルプスの天然水 スパークリング」「同 レモン」「サントリー 南アルプスの天然水&朝摘みオレンジ」が好調に推移し、ブランド全体の販売数量は前年同期を大幅に上回りました。「BOSS」は、主力商品に加え、9月に発売した「プレミアムボス」が好調に推移したことで、ブランド全体の販売数量が大きく伸長しました。「PEPSI」は、3月に中味・パッケージをリニューアルした「ペプシネックス ゼロ」の話題性ある広告宣伝活動を展開しました。「GREEN DA・KA・RA」は、夏の熱中症対策の水分補給飲料としての認知度がさらに高まり、販売数量が前年同期を大幅に上回りました。特定保健用食品では、「伊右衛門 特茶」が好調に推移するなど販売数量が前年同期を大幅に上回り、同社が市場拡大を牽引し、確固たる地位を築いています。

国際事業においては、各エリアにおける重点ブランドのさらなる強化やコスト削減等を実施しました。

欧州では、フランスやスペインにおいて「Orangina」<sup>オレンジーナ</sup>「Schweppes」<sup>シュウェッप्ス</sup>、英国において「Lucozade」<sup>ルコゼード</sup>「Ribena」<sup>ライビーナ</sup>等の主力ブランドに集中したマーケティング活動を実施しました。また、欧州全体での成長に向けて、経営基盤の最適化やシナジーの創出に取り組みました。その一環として、英国において従来委託販売されていた「Orangina」<sup>オレンジーナ</sup>、エナジードリンク「V」<sup>ヴィ</sup>についてLucozade Ribena <sup>ルコゼード ライベーナ</sup> Suntory Limitedによる販売に切り替えました。

オセアニアでは、フルコア・グループが主カブランド「V」の活性化に取り組んだほか、7月には「Lucozade」「Ribena」の販売を開始し、9月には初のサントリーブランド商品となる「OVI」を発売するなど、商品ラインナップを拡充しました。

アジアでは、各国において事業基盤の強化や、新商品の投入等による事業拡大に積極的に取り組みました。特にベトナムにおいては、サントリーブランド商品「TEA+<sup>ティープラス</sup>[ウーロン茶]」が大きく伸長したほか、新たに「C. C. レモン」を発売しました。

米州では、ノースカロライナ州を中心にペプシブランドのさらなる販売強化に加え、営業や物流等、事業効率の改善を進めました。

これらの結果、飲料・食品セグメントの売上高は、9,350億円(前年同期比112.4%)となりました。

#### 〈ビール・スピリッツセグメント〉

当セグメントは、ビール事業とウイスキーやRTDなどのスピリッツ事業をもつサントリー酒類(株)に加え、5月から新たにビーム サントリー社が連結対象となりました。

サントリー酒類(株)は、“プレミアム”をキーワードに掲げ、需要創造に向けた価値提案活動を強化しました。

ビール事業は、国内で5,322万ケース<sup>\*1</sup>(前年同期比102%)と過去最高の販売数量を達成しました。

「ザ・プレミアム・モルツ」は、特長である“深いコク”“華やかな香り”“クリーミーな泡”の訴求活動を強化し、1,243万ケース(前年同期比101%)と伸長しました。なかでも、プレミアムビールへの注目が高まる中、中元ギフトは前年同期を大きく上回りました。

新ジャンルの「金麦」ブランドは、2,685万ケース(前年同期比110%)と好調に推移しました。ノンアルコールビールテイスト飲料No.1<sup>\*2</sup>ブランド「オールフリー」も、536万ケース(前年同期比102%)と伸長しました。海外では、アジア・オセアニアなどで「ザ・プレミアム・モルツ」の販売を強化しました。

なお、ビール事業については、10月1日よりサントリー酒類(株)から独立し、新設したサントリービール(株)が経営を行っています。

スピリッツ事業は、主要ブランドが好調に推移し、前年同期比107%の売上となりました。

ウイスキーは、国内で前年同期比105%と伸長しました。

「角瓶」は、2月にコミュニケーションを刷新するとともに食との相性訴求活動を強化し、前年同期比110%と大きく伸長しました。国産プレミアムウイスキーは、「山崎」「白州」「響」ブランドが好調に推移し、前年同期比123%と大幅に伸長しました。7月には世界的な酒類コンペティションで「響21年」がウイスキー部門の最高賞を受賞しました。

輸入ウイスキーは、「ジムビーム」「メーカーズマーク」などのバーボンウイスキーを中心にお客様接点の拡大を図りました。

海外では、欧米を中心に「山崎」「白州」「響」ブランド、アジアで「角瓶」の積極的なマーケティング活動を展開し、さらなる浸透に取り組みました。

RTDは、前年同期比106%と好調に推移しました。「-196°C ストロングゼロ」は、〈DRY〉などが好調で前年同期比109%と大きく伸長しました。「ほろよい」は、新商品の積極的な投入などにより、前年同期比108%となりました。ハイボール缶は、前年同期比113%と大きく伸長し、市場を牽引しました。

RTS<sup>※3</sup>は、「ふんわり鏡月」が引き続き好調に推移し、新たな市場を着実に創出しています。

ビーム サントリー社は、世界最大のスピリッツ市場である米国を中心に、世界No.1<sup>※4</sup>バーボンウイスキー「ジムビーム」や、「メーカーズマーク」といった主要プレミアムブランド、および「サウザ」「オルニトス」などのテキーラが伸長し好調な売上となりました。

なお、ビーム サントリー社は、10月1日にスピリッツ事業の専業会社となったサントリー酒類(株)と経営を統合しました。両社を合計すると、世界第3位のプレミアムスピリッツメーカーとなります。

これらの結果、ビール・スピリッツセグメントの売上高は、5,630億円(前年同期比136.8%)となりました。

※1 大瓶換算(1ケース=633ml×20本)・ノンアルコールビールテイスト飲料含む

※2 インターミッドIAI調べ ノンアルコールビールテイスト飲料ブランド 累計販売金額  
2013年1月~12月(全国SM/CVS/酒DS/一般・業務用酒店計)

※3 RTS(Ready To Serve):グラスにそそぐだけでカクテルなどの本格的な味わいが気軽に楽しめるお酒

※4 2013年販売数量実績(IMPACT NEWSLETTER February 1&15 2014 号より)

#### 〈その他セグメント〉

サントリーワインインターナショナル(株)は、国産ぶどう100%ワイン“日本ワイン”が好調に推移しました。5月には国際ワインコンクールで「登美白 2012」が「日本ワイン特別賞」「金賞」を同時に受賞しました。また、「酸化防止剤無添加のおいしいワイン。」も引き続き伸長しました。

サントリーウエルネス(株)は、「セサミン」シリーズやスキンケア化粧品「F.A.G.E.<sup>エフアージュ</sup>」等が好調で前年同期比111%の売上となりました。

サントリー(中国)ホールディングス有限公司は、前年同期比124%の売上となりました。

これらの結果、その他セグメントの売上高は、2,844億円(前年同期比109.2%)となりました。

なお、国内売上高は1兆1,600億円(前年同期比103.0%)、海外売上高は6,224億円(同164.9%)となりました。

当社は、創業以来、積極的に事業を展開するとともに、創業の精神である『利益三分主義』に基づき、文化・社会貢献、環境活動などにも取り組んでいます。また、『水と生きる SUNTORY』というコーポレートメッセージのもと、社会と自然との共生を目指したさまざまな活動を展開しています。

東日本大震災の復興支援活動は、「サントリー東北サンさんプロジェクト」として、「漁業の復興支援」「未来を担う子どもたちの支援」「文化・スポーツを通じた支援」を柱に実施しています。当第3四半期連結累計期間には、新たに「チャレンジド・スポーツ(障がい者スポーツ)への支援」10億円を含む20億円の拠出を決定し、震災以降累計で108億円の規模で支援活動を展開しています。

環境活動では、持続可能な地球環境を次代へ引き渡すことを目的に、2050年に向けた「サントリー環境ビジョン2050」を策定するとともに、「2020年目標」を設定しました。水源涵養活動を展開しているサントリー「天然水の森」においては、国内工場で使用する地下水量の2倍の水を涵養するため、2020年までに面積を12,000haに拡大します。

## 2.通期の見通し

2014年12月期の売上高は、2兆4,400億円(前年同期比119.6%)、営業利益1,670億円(同132.0%)、経常利益1,430億円(同118.6%)、当期純利益370億円(同18.9%)を予定しています。

(2014年8月6日発表の業績予想から変更はありません。)

## 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

期 別 科 目	前連結会計年度 (2013年12月31日現在)	当第3四半期連結会計期間 (2014年9月30日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
( 資 産 の 部 )			
I 流動資産	1,007,834	1,134,917	127,082
現金及び預金	418,654	200,452	△218,201
受取手形及び売掛金	287,242	352,215	64,972
たな卸資産	224,134	459,689	235,554
その他	78,679	124,664	45,985
貸倒引当金	△875	△2,103	△1,228
II 固定資産	1,364,861	3,206,553	1,841,692
1.有形固定資産	527,269	639,401	112,132
建物及び構築物	148,760	180,262	31,502
機械装置及び運搬具	180,555	228,103	47,548
工具、器具及び備品	67,709	68,056	346
土地	94,760	106,418	11,657
その他	35,482	56,561	21,078
2.無形固定資産	650,413	2,366,204	1,715,790
のれん	409,293	1,034,197	624,904
商標権	184,942	1,271,508	1,086,565
その他	56,177	60,498	4,321
3.投資その他の資産	187,178	200,947	13,768
投資有価証券	116,302	120,522	4,220
その他	73,162	82,290	9,128
貸倒引当金	△2,285	△1,866	419
III 繰延資産	1,374	1,102	△272
資 産 合 計	2,374,070	4,342,573	1,968,502

(単位:百万円)

期 別 科 目	前連結会計年度 (2013年12月31日現在)	当第3四半期連結会計期間 (2014年9月30日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
( 負 債 の 部 )			
I 流動負債	760,029	914,838	154,808
支払手形及び買掛金	93,703	133,681	39,977
電子記録債務	106,106	116,952	10,845
短期借入金	83,428	247,175	163,746
1年内償還予定の社債	108,566	26,122	△82,443
未払酒税	46,412	33,830	△12,581
未払消費税等	10,791	17,617	6,825
未払法人税等	34,392	17,557	△16,835
未払金	122,239	136,529	14,289
未払費用	62,329	83,503	21,174
賞与引当金	12,616	24,887	12,271
その他	79,442	76,979	△2,462
II 固定負債	557,315	2,325,554	1,768,239
社債	64,700	341,854	277,154
長期借入金	322,387	1,417,339	1,094,951
退職給付引当金	11,000	26,665	15,664
役員退職慰労引当金	298	620	322
繰延税金負債	80,104	436,439	356,335
その他	78,824	102,634	23,810
負債合計	1,317,344	3,240,392	1,923,048
( 純 資 産 の 部 )			
I 株主資本	711,624	730,569	18,945
資本金	70,000	70,000	—
資本剰余金	△21,109	△20,739	370
利益剰余金	666,066	683,913	17,847
自己株式	△3,332	△2,604	727
II その他の包括利益累計額	56,386	81,197	24,811
その他有価証券評価差額金	20,611	19,584	△1,026
繰延ヘッジ損益	1,374	394	△980
為替換算調整勘定	34,400	61,218	26,818
III 少数株主持分	288,714	290,412	1,698
純資産合計	1,056,726	1,102,180	45,454
負債純資産合計	2,374,070	4,342,573	1,968,502

## 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

期 別  科 目	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間	増 減
	〔 自 2013年 1月 1日 至 2013年 9月30日 〕	〔 自 2014年 1月 1日 至 2014年 9月30日 〕	
	金 額	金 額	金 額
I 売 上 高	1,504,183	1,782,444	278,261
II 売 上 原 価	741,088	894,042	152,954
売 上 総 利 益	763,094	888,402	125,307
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	673,672	771,521	97,849
営 業 利 益	89,422	116,880	27,458
IV 営 業 外 収 益	3,989	8,246	4,257
受 取 利 息	715	809	93
受 取 配 当 金	1,486	4,647	3,160
雑 収 入	1,787	2,790	1,002
V 営 業 外 費 用	8,556	15,124	6,567
支 払 利 息	6,249	12,525	6,276
雑 支 出	2,307	2,598	291
経 常 利 益	84,855	110,002	25,147
VI 特 別 利 益	180,414	391	△180,023
受 取 保 険 金	1,049	—	△1,049
組 織 再 編 益	2,281	—	△2,281
持 分 変 動 利 益	131,383	—	△131,383
関 係 会 社 株 式 売 却 益	45,490	—	△45,490
固 定 資 産 売 却 益	63	210	147
投 資 有 価 証 券 売 却 益	74	134	60
そ の 他	71	46	△25
VII 特 別 損 失	7,382	21,108	13,725
固 定 資 産 廃 棄 損	2,518	2,584	66
買 収 関 連 費 用	—	8,816	8,816
組 織 再 編 関 連 費 用	2,151	7,114	4,963
そ の 他	2,713	2,591	△121
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益	257,886	89,285	△168,601
法 人 税 等	62,501	40,389	△22,112
少 数 株 主 損 益 調 整 前 四 半 期 純 利 益	195,385	48,895	△146,489
少 数 株 主 利 益	11,758	19,467	7,709
四 半 期 純 利 益	183,626	29,428	△154,198



# セグメント情報

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営陣が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は持株会社制を導入し、持株会社である当社の下、製品・サービス別の事業分野別に事業会社等を設置しています。各事業会社等は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社グループは事業会社等を中心とした製品・サービス別のセグメントから構成され、「飲料・食品事業」、「ビール・スピリッツ事業」の2つを報告セグメントとしています。

各報告セグメントと「その他」の区分に属する主な製品・サービスの種類は以下のとおりです。

飲料・食品……………清涼飲料、健康飲料、加工食品 他  
 ビール・スピリッツ……………ビール類、ウイスキー、焼酎、RTD 他  
 その他……………中国事業、ワイン、健康食品、アイスクリーム、外食、スポーツ、花 他

## 2. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2013年1月1日 至 2013年9月30日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	ビール・スピリッツ	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	831,985	411,630	260,567	1,504,183	—	1,504,183
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,172	2,593	8,278	16,044	△ 16,044	—
計	837,157	414,223	268,845	1,520,227	△ 16,044	1,504,183
セグメント利益	66,328	23,557	22,957	112,844	△ 23,421	89,422

当第3四半期連結累計期間(自 2014年1月1日 至 2014年9月30日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	ビール・スピリッツ	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	935,010	562,987	284,446	1,782,444	—	1,782,444
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,632	2,894	7,650	17,177	△ 17,177	—
計	941,643	565,882	292,097	1,799,622	△ 17,177	1,782,444
セグメント利益	78,509	37,217	24,338	140,065	△ 23,185	116,880

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。それぞれの金額は次のとおりです。

前第3四半期連結累計期間	
セグメント利益の調整額	△ 23,421 百万円
各報告セグメントに配分していない全社費用	△ 23,473 百万円
セグメント間取引消去	52 百万円
当第3四半期連結累計期間	
セグメント利益の調整額	△ 23,185 百万円
各報告セグメントに配分していない全社費用	△ 23,233 百万円
セグメント間取引消去	48 百万円

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。